

2016 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 12 月 26 日作成)

小委員会名	室内音響小委員会	主 査 名：佐藤 史明 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：羽山 広文 主 査 名：佐久間 哲哉
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内音響学に関する知見や技術を広く様々な空間に応用して社会貢献を目指す ・ 室内音響分野のメインストリームの活性化 ・ 活動方針や活動内容の決定とWGの設置 ・ 目的に対する議論と各WGの活動のサポート 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	佐藤史明 (千葉工大)、豊田恵美 (小林理研)、青木亜美 (日建設計)、池上雅之 (大林組)、石渡智秋 (永田音響)、上野佳奈子 (明治大学)、大久保洋幸 (NHK技研)、川井敬二 (熊本大)、坂本慎一 (東大生研)、佐久間哲哉 (東大)、清水寧 (東工大)、佐藤洋 (産総研)、羽入敏樹 (日大)、船場ひさお (フェリス女学院)	
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内音響設計事例集企画検討WG：吸音の必要性の啓蒙 (ミッション終了につき廃止申請済み) ・ スピーチプライバシーWG：評価方法や制御・設計方法に関する研究 ・ インパルス応答予測・計測WG：室内音響指標のベンチマーク問題 ・ 子どものための音環境WG：保育施設の音環境の問題点やニーズの把握 	
2015 年度予算	100,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： インパルス応答予測・計測WG http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s24/benchmark/index_j.html http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s24/benchmark/index.html

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 第 78 回音シンポジウム「スピーチプライバシーの確保を目的とした建築設計～音声情報漏洩防止～」 資料名：同上 参加者数 43 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. スピーチプライバシーWGにおいては、音シンポジウムを開催し、音響関係者に加えて建築設計者、施主を交えた議論を通じて、本設計指針について、貴重な意見交換を行った。 2. 子どものための音環境WGにおいては、日本建築学会 2016 年度大会 (福岡) と ICA 2016 (Buenos Aires, Argentine)において成果の発表と議論を行った。
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 室内音響設計事例集企画検討WG：前年度においてディテール 207 (彰国社) の編集協力を行い、その結果を踏まえて今後の展開について議論し、次期につながる見解を得るに至り、吸音の啓蒙活動として非常に高く評価できる。 2. スピーチプライバシー研究WG：シンポジウムを開催するまでに至り、非常に高い達成度である。 3. インパルス応答予測・計測WG：STI の測定法について、測定信号の再生レベルに明確な規定が無く、室内の暗騒音の影響により測定されるインパルス応答の S/N 比と算出される STI 値の確かさについて課題があること等の課題を整理し次期活動に繋がる成果を得ることができ、高い達成度である。 4. 子どものための音環境WG：現状に関する実地調査、欧米における設計基準や法制度の調査、音響設計の普及のための専門家による議論を通して、保育施設における音環境上の問題点やニーズの把握、設計すべき項目の検討を行い、次期活動に繋がる成果を得ることができ、高い達成度である。
委員会活動の問題点・課題	・ 特になし

2016 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>室内音響設計事例集企画検討WGにおいては、前年度においてディテール 207(彰国社)の編集協力を行い、その結果を踏まえて今後の展開について議論し、次期につながる見解を得るに至り、WG廃止の申請をした。スピーチプライバシー研究WGにおいては、シンポジウムを開催するまでに至った。インパルス応答予測・計測WGにおいては、測定信号の再生レベルに明確な規定が無く、室内の暗騒音の影響により測定されるインパルス応答のS/N比と算出されるSTI値の確かさについて課題があること等の課題を整理し次期活動に繋がる成果を得ることができた。子どものための音環境WGにおいては、現状に関する実地調査、欧米における設計基準や法制度の調査、音響設計の普及のための専門家による議論を通して、保育施設における音環境上の問題点やニーズの把握、設計すべき項目の検討を行い、次期活動に繋がる成果を得ることができた。</p> <p>以上、全てのWGにおいて室内音響学の社会貢献を目指した達成度は非常に高い。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。